

第2学年 英語科学習指導

〔NEW HORIZON English Course2〕

単元名 Unit4 Homestay in the United States

場所 : 2年3組教室

学級 : 大野町立大野中学校

2年3組 (30名)

授業者

ALT

1. 指導の立場

(1) 単元について

中学校学習指導要領解説外国語編に示されている、本単元における指導内容は以下の通りである。

話すこと〔発表〕
イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようになる。
思考・判断・表現力等
イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

本単元では、習慣や文化の異なる環境での生活やマナー、コミュニケーションの大切さや難しさについて考えさせるためにキャラクター達のホームステイ体験が扱われている。異なる国での「当たり前」になっている生活習慣や文化について知り、ともに暮らすにはどうするとよいかを考えるきっかけにさせたい。言語材料としては、have to と must といった助動詞と、主語または目的語になる動名詞が扱われている。

本時では、日本に来る予定のアメリカ人のパトリックに、日本で過ごす際に知っておくとよい習慣やマナーを考える。パトリックにとって「当たり前」になっている生活習慣やマナーが、何であるかを明確にするとともに、パトリックが安心して日本での生活が送れるようなアドバイスを考える。

(2) 生徒の実態

Unit3 では、自分の将来の夢やなりたい職業について英語で考え、学級の仲間や ALT に伝える活動を行った。単元で学習した不定詞を入れることで、自分の考えをより具体的に話せることを理解した。

Unit4 では、各パートの登場人物にとっての生活習慣やマナーなど「当たり前」と考えていることを少しずつ理解することで、相手の立場で考えることが大切

であることを理解した。また、本時の単元のまとめの活動でも登場人物の「当たり前」を理解するが、これまでの授業で学んだ、様々な「当たり前」やその背景にある文化などを想起させ、相手の「当たり前」やその背景を踏まえたアドバイスができるようにする。

2. 研究との関わり

【研究内容2】について

英語科部では、対話活動を通して、相手に自分の考えや思いを伝えるにはどのような表現を使うとよいか自分で選択して表現する生徒を育てたいと考えている。さらに英語の学びを通して、話す目的や場面、状況に応じて、相手に分かりやすく伝えようとすることができる生徒を育てていきたい。

まず、「主体的な学びを生み出す指導の工夫」として、パトリックの3つの関心事のうち、どのことについてアドバイスするのかを生徒に選択させる。また、同じ関心事についてアドバイスを考えた生徒同士で小集団を形成して言語活動に取り組ませる。このように生徒に「自己選択」「自己決定」をさせることが、主体的な学びにつながると考える。

次に、「対話的な学びを生み出す指導の工夫」として、同じ疑問に対してのアドバイスを考えた人で集まり、交流する場を設ける。言語活動に入る前に「一つの関心事につき、交流して内容の違うアドバイスを3つ以上は作ろう。」という明確な目的を生徒にもたせる。そうすることで、他者との対話を通して自分の考えを広げたり、深めたりすることができると思う。また、全体交流をする前に今まで単元を通して学習してきた登場人物の「当たり前」を確認する時間を設ける。さらに、今まで学習してきた登場人物が考えている「当たり前」を再確認することで、改めてパトリックが困りそうな日本の「当たり前」を予測してアドバイスを考えることが大切であると気付かせる。このように前回まで学習してきたことを再確認し、改めて自分の考えを見直すことが再構築であり、「深い学び」につながると考える。

3. 単元構造図(全11時間)

【単元のねらい】

ホームステイ体験を読み取り、日本に住む自分達にとっての当たり前と、外国の人々にとっての当たり前は異なることに気づき、ともによりよく暮らしていくために相手の立場や考えを踏まえながらアドバイスを伝えることができる。

【単元のはじめの生徒の意識】

「ホームステイ」という言葉は聞いたことがあるが、実際にはどういうことをするのだろうか。もし自分の家に外国の人が来たら、自分達の習慣や文化をどのように教えればよいのだろうか。

【①②ホームステイについて】 課題：What is important during the homestay?

<ねらい>

ホームステイである必要があることやないことを、理解したり伝えたりすることができる。(知・技)(主体的)

<生徒の意識>

ホームステイでは、コミュニケーションをとるために完璧な英語を使う必要はなく、自分の考えや思いを伝えようとするのが大切である。

【③④日米の生活習慣や文化の違い】

課題：What is something natural for Kaito and Mrs. Wilson?

<ねらい>

日米の生活習慣や文化の違いを知り、海斗とウィルソンさんがともに生活するための解決策を考えて書くことができる。(思・判・表)

<生徒の意識>

海斗とウィルソンさんそれぞれに当たり前だと思っていることがあるため、ともに生活していく上でもそれぞれの生活習慣や文化を理解し合うことが大切である。

【⑤⑥他の国の人に自分の学校紹介】

課題：What are the Ohno JHS rules? And why are they important?

<ねらい>

他の国でのルールがあることも理解したうえで、自分達の学校のルールを伝えったり、書いたりすることができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

他の国でもルールが存在しており、それを守ってきたからこそ、自分達のルールを当たり前だと決めつけず、丁寧に分かりやすく伝えなくてはならない。

【⑦⑧ホームステイでの問題点】

課題：What good advice would you tell Shin and Nami?

<ねらい>

ホームステイでの問題点を知り、気持ちよく生活するための解決策を伝えたり書いたりすることができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

慎と奈美のホームステイ先での悩みや当たり前だと感じていたことを理解することができた。ただ、それと同時に慎と奈美のホストファミリーの当たり前を理解することも大切だ。

【⑨⑩海斗がホームステイ先で大切だと感じたこと】

課題：What are important during the homestay?

<ねらい>

海斗のホームステイ先での感想文を読む活動を通して、海斗がホームステイ先で分からないことや困っていることがある時には、自分の気持ちを英語で話し続けることが大切だと理解することができる。(知・技)

<生徒の意識>

海斗がホームステイを充実させることができたのも、分からないことや困ったことがあった時にも自分の気持ちを英語で伝え続けたからだ。だから、英語で話し続けることが改めて大切だと感じた。

【単元を貫く課題】 What is important during the homestay?

【⑪パトリックにアドバイス(本時)】

課題：What good advice would you tell Patrick? And why?

<ねらい>

パトリックが安心して日本で過ごせるように、パトリックが当たり前だと思っている生活習慣や文化を理解し、そこから日本で過ごす際に知っておくよい習慣やマナーをより詳しく伝えることができる。(思・判・表)(主体的)

<生徒の意識>

パトリックにも当たり前になっている生活習慣や文化があることを理解し、自分達の生活習慣や文化を当たり前にするのではなく、パトリックに寄り添うことが大切だ。

【単元出口の生徒の意識】

他の国の人と生活する中で相手の生活習慣や文化を知って終わりにするのではなく、相手の生活習慣や文化を尊重し、自分にとっての「当たり前」に縛られず、相手の「当たり前」を理解することがお互いのコミュニケーションを深めるうえで大切なことだ。

4. 本時のねらい

パトリックが安心して日本で過ごせるように、パトリックが「当たり前」だと思っている生活習慣や文化を理解し、そこから日本で過ごす際に知っておくとよい習慣やマナーをより詳しく伝えることができる。

5. 本時の展開

	主な学習活動	指導・援助
導入	<p>1. 帯活動 (Small Talk) お互いに「当たり前」が違うことを理解する。 (お皿に料理が載っている写真を見ながら) S1: What food do you want to eat first? S2: I want to eat chicken.</p> <p>2. 教師と ALT でやりとりを見る。</p> <p>3. パトリックのブログを読み、彼が日本に来る時に気になっていることを読み取る。</p> <p>① I want to eat delicious food in Japan, but I don't know Japanese tables manners. Also, I'm not good at using chopsticks.</p> <p>② In American restaurants, we usually leave 15% as a tip. How much should we leave in Japan?</p> <p>③ I'm going to live with a host family. What Japanese customs should I know about?</p> <p>4. パトリックにとって「当たり前」になっていることを確認する。 (例) ① 箸を使う習慣がない。 ② レストランで、店員にお礼としてチップを支払っている。 ③ アメリカにも生活様式がある。</p> <p>What good advice would you tell Patrick? And why?</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本単元で学習してきた「当たり前」を再認識させる。自分で考え、相手に分かりやすく伝える。 【研究内容1・2】 パトリックの3つの関心事のうち、どのことについてアドバイスするのかを選択させることで、全員が主体的に学習に向かうことができるようにする。【研究内容2】 単元を通して学習してきたことをつなげて考えさせることで、生徒の多面的・多角的な思考につなげる。 【研究内容1】 言語活動に入る前に「一つの関心事につき、交流して内容の違うアドバイスを3つ以上は作ろう。」という明確な目的を生徒にもたせることで「対話的な学び」につなげる。 【研究内容2】 どう伝えるかを一方的に伝えるだけでなく、生徒自身がどうするとより伝わるかを考えることで「深い学び」につなげる。 【研究内容2】 文法の誤りは、全体交流の際に正しい形を確認し、正しい文法で書いているかどうかを自分自身で考えさせることが「確かな学力」につなげる。 【研究内容2】 自分で考えたものと比較して考えさせることで他の生徒との違いに気付き、更なる学びにつながるようにする。自分で学習したものをまとめさせることで、本時学んだことを確認させる。【研究内容3】
展開前段	<p>5. パトリックに対してのアドバイスを考える。</p> <p>① He can use a spoon and fork. ② He doesn't need to leave a tip. He says "Thank you". ③ In Japan, he should separate the trash.</p> <p>6. 自分の考えを整理・再構築する。 T: What is something natural for host family in the United States? Do you remember? How about Mrs. Wilson? S: She thinks Kaito must go home by six because it is not safe in America.</p>	
展開後段	<p>7. 同じ疑問についてのアドバイスを考えた人同士でグループを作り、交流する。 (①の場合) A: I can teach him how to use chopsticks. B: He doesn't have to use chopsticks. He can use a "knife and spoon." C: It's easy to use chopsticks. Let's practice using chopsticks.</p> <p>8. 全体交流によって、仲間の意見を取り入れる。 ○数人が発表し、自分が考えた内容と比べながら仲間のアドバイスを聞く。 (聞く視点) ・相手の「当たり前」と思っていることを理解し、アドバイスできている。</p>	
終末	<p>9. 本時のまとめ・振り返りを行う。 ○自分のアドバイスをプリントにまとめる。 ○ALTからのフィードバックを聞く。</p> <p>He wants to eat delicious food. When he wants to eat, he can use a spoon and fork. He has to call the waiter before he orders. He doesn't have to pay for a spoon and a fork.</p>	<p>評価規準【思考・判断・表現】 外国の人が安心して日本で過ごせるように、日本で過ごす際のアドバイスについて、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 (発言内容・プリント)</p>